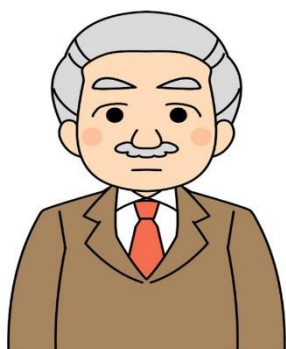


# 在宅勤務の メリット・ デメリット

ビジネスケーススタディ  
紙芝居



A  
社  
長



B  
部  
長

## 3か月後

### 社員研修マンガ教材

こちらは、とある会社の代表取締役であるA社長です。A社長は、最近、在宅勤務のニーズが増えていることから、自社でも在宅勤務を取り入れようと思っておりました。

『うーん、最近、在宅勤務のニーズがとても増えているように感じるんだよな。よし、うちでも、在宅勤務を積極的に推進することにしよう。担当部長は誰にしようかな。そうだな、ここはひとつ、仕事のスピード感に定評のあるB部長にお願いしてみよう』

こちらがそのB部長です。

『コンコンコン、社長、失礼します』

『おお、B部長、よく来てくれました。今日の一つ、お願いがあります。わが社でも在宅勤務を積極的に推進しようと思います。

そこで、B部長には、在宅勤務推進担当部長も兼任していただいて、これから社内で在宅勤務を推進するよう、お願いします』

『はい、わかりました』

こうして、B部長は、社内で在宅勤務が積極的に活用されるよう、在宅勤務制度を整備しました。

それから、3か月後のことです。在宅勤務制度がはじまって、社内では、在宅勤務に関して、さまざまな意見がB部長のところに寄せられるようになりました。

# 経理課



Cさん

こちらは、経理課のCさんです。

『B部長、おつかれさまです。最近、在宅勤務制度を活用する人が増えてきて、うちの会社では、通勤費は実費を支給しているのですが、在宅勤務で通勤費が減りまして、毎月の経費を削減することができました。それと、在宅勤務がさらに浸透するならば、今後は、オフィススペースを減少させて、社屋の賃料などの大きな固定費も節約できる可能性があります』

『おお、それはナイスアイデアですね。固定費の削減は会社経営にとって重要ですからね。ナイスアイデアありがとうございます』



# 人事課

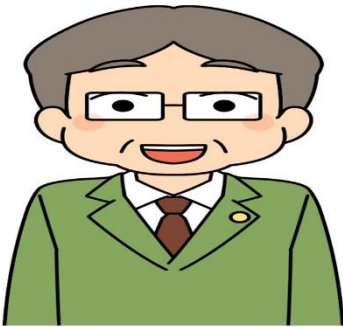


Dさん

他方、こちらは、人事課のDさんです。

『B部長、おつかれさまです。最近、社内から、在宅勤務によって、家族との時間が増えたと喜んでいる意見が多く聞かれるようになりました』

『おお、それは良かったですね。ワークライフバランスは大切ですよね』



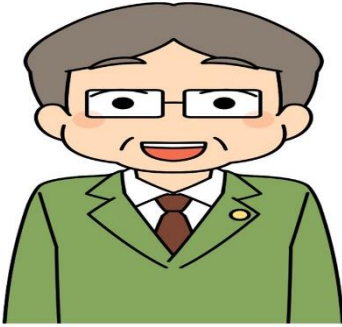
# 人事課



Dさん

『はい、B部長、それと、育児や介護に取り組む必要がある社員からも、とても喜ばれているようです。』

『また、求人を出す際にも在宅勤務があることを高く評価する求人応募者もいるようです。より優秀な人財に集まってもらえると思いますね』』



『なるほど、本当にそうですね。企業は人が宝物ですから、多様な勤務形態を用意することは大切ですね。ありがとうございます』』

# 営業課



Eさん

他方、こちらは、営業課のEさんです。

『B部長、おつかれさまです。最近、在宅勤務によって、営業部員による、営業のためのプレゼン資料の作成スピードが、以前よりも上がっているようです。営業部員に聞いてみたところ、自宅で集中して作業していると、話しかけられたり、電話がかかってきたりすることがないので、集中しやすくなったと言っていました』』



『おお、なるほど、在宅勤務にはそういった効果もあるんですね』』

# 営業課



# Eさん

『はい、そのようです。B部長、それと、営業部員によっては、在宅のときと出社するときで、業務にメリハリがついたり、お客様への対応のためにITツールをいろいろ試したり、事前の準備を増やしたり、価値の見せ方を変えたりと、いろいろ工夫する者が増えてきて、今までの仕事のやり方の見直しや、より効率的な業務実施方法を発見する機会になっているようです』



『おお、なるほど、それは素晴らしいことですね。ありがとうございます』

このような意見を聴いて、B部長はこう思っていました。



# B部長

『いやー、在宅勤務には色々な良い事、好影響があるってことは、実際に取り組んでみて初めて気づかされるのがいっぱいあるなあ。よし、これならもっともっと全面的に在宅勤務を推進することにしよう』

ところが、それから、半年後のことです。B部長は、悩んでいました。

# 半年後



B部長

『うーん、当初、在宅勤務をはじめたときは、いろいろ良いことがあったようだけど、なんだか、最近、社内の様子がおかしい気がするんだよなあ。なにか違和感があるというか・・・』

人事課



Dさん

こちらは、人事課のDさんです。

『B部長、いま、よろしいでしょうか。実は、在宅勤務によって、社内のコミュニケーションが減ってしまったとか、以前よりも職場の一体感が減ってしまったという声が増えています。それと各部署の方々から、部下の評価をするのが以前よりも難しくなったという意見が増えています。どうしても、職場で接することが減っているの、そのように感じているようです』



B部長

『なるほど！たしかに、その問題は難しそうですね。情報をありがとうございました』

営業課



Eさん

こちらは、営業課のEさんです。

『B部長、いま、よろしいでしょうか。実は、在宅勤務によって、以前より、営業活動に力を入れる社員が少しずつ減ってきてしまったと感じております。在宅勤務なので、上司としても管理がしづらくなりまして、もしかすると、営業部員もサボりやすくなってしまっているのかもしれない。孤独になりやすいので、モチベーションが下がってしまいがちなのかもしれません』



**B部長**

『なるほど！たしかに、在宅勤務だと、社員さんの悩み相談にのってあげたり、勇気づけてあげたりすることも難しくなりますよね。なるほど、情報ありがとうございます』

**営業課**



**Eさん**

『B部長、それとですね、以前は、いろいろな雑談をするなかで、いろんなアイデアが出てくるということがあったのですが、在宅勤務によって、営業部員からアイデアが出てくるということが一気に少なくなっていました』



**B部長**

『なるほど！たしかに、アイデアは何気ない会話から生まれたりすることってありますよね。わかりました。情報ありがとうございます』



**B部長**

B部長は、各部署からの報告を聴いて、困ってしまいました。

『あー、困った困った、はじめは、在宅勤務制度は素晴らしいと思って、どんどん積極的に在宅勤務をするよう推進してしまったけれども、他方で、いろいろなデメリットもあるということが、やってみてはじめてわかったよ。いったいどうすれば良いのだろうか？』



『そうだ、もう一度、わが社の場合における、想定される在宅勤務のメリットとデメリットをリストアップして、メリットは最大化するように、デメリットは最小化するように、柔軟に、試行錯誤、やってみて改善してみよう』

<参考>

「在宅勤務制度を始めたい・・・」

「在宅勤務制度のメリット・デメリット  
を考えてみたい・・・」

というよくあるご相談についての物語をマンガ形式でお伝えしました。

色々な考え方があるところですので、一概には何とも言えませんが、あくまで一つの考え方として、意見交換のためのお題などにご利用いただけましたら幸いです。

